

ネクタリン新品種“ヒラツカ・レッド”について

誌名	果樹試験場報告. A = Bulletin of the Fruit Tree Research Station. Series A
ISSN	03852326
著者名	吉田,雅夫 金戸,橘夫 栗原,昭夫 西田,光夫 京谷,英壽 山口,正己
発行元	農林省果樹試験場
巻/号	10号
巻号補足	
掲載ページ	p. 9-16
発行年月	1983年3月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



ネクタリン新品種‘ヒラツカ・レッド’について†

吉田雅夫, 金戸橘夫^{††}, 栗原昭夫,
西田光夫^{†††}, 京谷英壽, 山口正己

I 緒 言

ネクタリンは果皮に毛じのない, モモの一変種で, 油桃, 裸桃, ズバイモモとも呼ばれている. 我が国における栽培の歴史は古く, 明治以前, 瀬戸内地方には, ‘大長油桃’, 北陸地方には‘薬缶’, ‘弥次衛門’など多数の品種が栽培されていた(Ikeda, 1907; 浅見, 1927; 菊池, 1948). しかし, これらの在来品種は品質が不良で, 商品価値が低かったので明治以後, 欧米から多数の品種が導入され(三田育種場, 1884), ネクタリンとして各地で試作試験が行われた(神奈川農試, 1924; 農商務省農試園芸部, 1912, '17, '23; 岡山農試, 1917~'23). 興津の園芸試験場では谷川が1917年にネクタリンの品種改良に着手し, ‘プレコース・ド・クロンセル’に‘ロード・ナビア’を交配して, 1934年に‘興津’を命名, 発表している(谷川, 1934). しかし, これらの品種も雨や病害に弱く, 栽培が難しかったので, 産地は狭い地域に限られていた.

一方, アメリカにおけるネクタリンの育種は1940年代に Blake らによって開始され, モモとネクタリンの交雑によって栽培性と品質が改良され, 特に果実の外観と日持ち性に関しては急速な進歩を遂げ, ニュージャージーでは‘Nectared’シリーズ(Hough ら, 1962), カリフォルニアでは‘Le Grand’シリーズなどが育成されている.

果樹試験場では戦後, アメリカよりネクタリンの新品種を導入して特性を検定するとともに, 1961年からは第3次育種試験を開始し, これらの交雑実生の中から, 栽培しやすく商品性の高いものを選抜してきた(吉田, 1971). 本品種は1972年から第3回系統適応性検定試験を実施してきた6系統の中から選抜されたものであり, 将来有望と認められ, 1981年11月に農林水産省育成農作物新品種命名登録規程に基づき, ‘ヒラツカ・レッド’と命名のうえ, ‘もも農林12号’として登録, 公表されたので, この機会に本品種の特性を紹介する.

なお, 本品種の育成に当たり, 多大の御協力を寄せられた歴代職員, 研修生諸君並びに系統適応性検定試験を担当された関係府県試験場の各位に心から謝意を表する次第である.

II 育 成 経 過

本品種は1961年, 旧農林省農業技術研究所園芸部(現農林水産省果樹試験場本場)において, ‘興津’に‘NJN 17’を交配して育成した交雑実生である. 1961年交配, 個体番号‘19-16’として栽植され, 1964年初結実, 1966年に一次選抜された. その後, しばらく特性を検討し, 1972年より系統番号

† 果樹試業績番号: A-136 (1982年6月16日受付)

†† 元 果樹試験場 育種部長

††† 前 果樹試験場 育種部長

‘モモ平塚68号’として福島、山梨、岡山など16の場所で第3回系統適応性検定試験を実施した結果、品質、栽培性ともに優れていることが認められ、1981年に農林水産省育成農作物新品種命名登録規程に基づき‘ヒラツカ・レッド’（もも農林12号）として登録、公表された。また、本品種は種苗法に基づき、1983年2月24日、登録番号第362号として登録された。本品種の系統図は Fig. 1 に示したとお

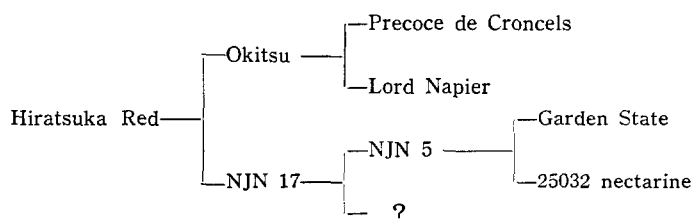


Fig. 1. Pedigree of the ‘Hiratsuka Red’ nectarine.

りて、その育成に関与した担当者及び系統適応性検定試験を実施した場所を次に列記した。

育成担当者（担当期間）：金戸橋夫（1961～’68, 1970～’79）、栗原昭夫（1961～’68）、吉田雅夫（1963～現在）、千葉勉（1968～’70）、西田光夫（1973～’75, 1979～’82）、京谷英寿（1970～現在）、山口正己（1976～現在）。

系統適応性検定試験実施場所：山形県立園芸試験場、福島県果樹試験場、栃木県農業試験場、神奈川県園芸試験場、山梨県果樹試験場、長野県果樹試験場、長野県南信農業試験場、愛知県農業総合試験場園芸研究所、京都府山城園芸研究所、奈良県農業試験場、和歌山県果樹園芸試験場紀北分場、兵庫県農業総合センター農業試験場但馬分場、岡山県立農業試験場、山口県農業試験場、香川県農業試験場府中分場、愛媛県立果樹試験場。

III 特性の概要

1. 形態的特性

(1) 樹性

樹姿はやや開張性で、ネクタリンとしては枝の分岐角度は広い。樹勢はやや強い。結果枝の長さ、太さともに中くらい、枝の発生はやや密である（Fig. 2）。花芽の着生は良好で、複芽と単芽が混在



Fig. 2. Tree of ‘Hiratsuka Red’.

しているが、ヨーロッパ系品種よりも複芽が多い。葉は黄緑色であるが、‘秀峰’より緑色が濃い。みつせんはじん臓形である。花は普通咲き、一重で桃色、がく筒内壁は橙（だいだい）色である。完全花が多く、花粉は多い（Fig. 6, 本稿末尾；Table 1）。

(2) 果実

果実の大きさは約 150 g、ネクタリンとしては中玉である。果実は円形ないしは短円形、果頂は平らで、梗窪（こうあ）は深さ、

Table 1. Tree characteristics of ‘Hiratsuka Red’ (1979).

District	Tree			Flower bud	Physiological fruit drop	Yield (kg/tree)
	Age	Shape	Vigor			
Yamagata	6	Open	Vigorous	Medium	Little	29
Fukushima	9	"	Medium	Many	"	100
Chiyoda	7	"	"	"	"	17
Kanagawa	10	"	"	"	"	—
Yamanashi	10	"	Slightly vigorous	"	"	64
Nagano	10	Spreading	Medium	"	"	71
Aichi	9	Open	Vigorous	"	"	71
Kyōto	9	Slightly open	Medium	"	"	16
Wakayama	7	Open	Vigorous	"	"	48
Hyōgo	7	"	Slightly vigorous	Medium	Medium	30
Okayama	4	"	"	Many	Little	—
Kagawa	7	Slightly open	Vigorous	"	"	68

広さともに中くらいである。縫合線は浅く、明らかである。片肉果は少なく、玉ぞろいは良好である。果皮の地色は黄色で、全面が紅色に着色する。果皮は滑らかで光沢があり、外観は美しい。少し裂果することもあるが、‘早生ネクタリン’や‘興津’に比較すれば少ない。果皮の厚さは中くらい、はく皮は容易である。

果肉は黄色で、核周囲に紅を少し生ずる。肉質は柔軟、多汁で良好、繊維は中くらいである。甘味は年によってふれがあるが、中くらい、屈折計示度で11~12°である (Fig. 3)。酸味は多く、平均 pH 3.7 であるが、‘Nectared’や‘Flavortop’などの導入品種に比較すれば、そう酸っぱくはない。渋みはほとんど感じられない。食味は中~中上、風味良好である。日持ち性は普通、年により果頂部が軟化し、日持ち性がやや不良となることがある。核は離核で、大きさは中くらい、だ円形で核割れは少ない (Fig. 4, 5, 本稿末尾; Table 2)。

2. 栽培的特性

樹姿はよく開張し、複芽の着生も良好なので整枝は容易である。発芽期及び開花期はやや早く、‘白桃’や‘興津’より数日早い、‘秀峰’よりは少し遅い。自家結実性で、生理的落果も少なく、結実は安定している。灰星病の発生をみるが、雨などによる裂果は少なく、熟期も比較的早いので無袋栽培が可能である。しかし、ネクタリンは全般的に害虫、特に果実吸ガ類、甲虫類の被害やムクドリなどの鳥の被害を受けやすいので、これらの被害が多くみられる所では袋掛けが必要であろう。成熟期は中生で、‘白鳳’とほぼ同時期に熟する。年次、場所による変異はみられるが、成熟日数は平均 106 日である (Table 3)。

3. 将来性

嗜(し)好の多様化に伴い、新しい果物のネクタリンに関心を持つ人が増えてきたが、我が国のネクタリンにはまだ優良な品種が少なく、栽培はごく小規模である。これまで中生の‘興津’が主要品種として栽培されてきたが、耐病性と果実の日持ち性に難点があり、大規模な栽培は難しかった。近年

Table 2. Fruit characteristics of 'Hiratsuka Red' (1978~'80).

District	Year	Shape	Fruit wt. (g)	Uniformity	Blush	Cracking	Texture	Refractometer index	pH	Edible quality	Keeping quality	Split-pit
Yamagata	1978	Round	166	Good	Much	Little	Medium	9.6	—	Good	Good	Little
	'79	"	161	"	"	"	"	9.2	—	"	"	Non
	'80	Round elliptic	151	"	"	"	"	10.0	—	"	"	Little
Fukushima	1978	Round elliptic	157	Good	Much	Little	Medium	12.2	3.7	Good	Fair	Little
	'79	"	151	"	"	"	"	10.6	3.6	"	"	Medium
	'80	"	161	"	"	"	"	9.2	3.7	"	Good	"
Chiyoda	1978	Round elliptic	103	Good	Much	Non	Fine	13.6	3.7	Good	Fair	Medium
	'79	"	138	"	"	"	"	11.4	3.6	"	"	Little
	'80	"	135	"	"	"	"	12.0	3.7	"	Good	"
Kanagawa	1978	Round	85	Good	Much	Little	Medium	11.2	3.6	Good	Fair	Non
	'79	"	77	"	"	"	Fine	9.2	3.7	"	"	"
	'80	"	109	"	"	"	"	9.5	3.6	"	"	"
Yamanashi	1978	Round	176	Fair	Much	Little	Fine	11.0	3.3	Good	Good	Medium
	'79	"	189	"	"	"	"	11.6	3.2	"	"	"
	'80	"	178	Good	"	"	"	10.3	3.5	"	"	Little
Nagano (Suzaka)	1978	Round	100	Good	Much	Non	Fine	13.8	3.3	Good	Good	Non
	'79	"	134	"	"	Little	"	11.6	3.5	"	"	Little
	'80	"	134	"	"	Non	"	13.6	3.4	"	"	"
Nagano (Nanshin)	1980	Round	173	Good	Much	Non	Fine	11.8	3.2	Good	Good	Non
Aichi	1978	Round elliptic	157	Good	Much	Non	Fine	11.8	3.8	Excellent	Fair	Non
	'79	"	175	"	"	"	"	10.0	3.7	"	"	Medium
	'80	"	173	"	"	Little	"	10.2	3.5	"	"	Little
Kyōto	1978	Round	128	Good	Much	Little	Medium	14.5	3.6	Good	Good	Little
	'79	"	128	"	"	"	"	13.8	3.9	Excellent	Fair	"
	'80	"	139	"	"	Non	"	14.5	3.7	"	"	Much
Wakayama	1979	Round elliptic	186	Good	Much	Non	Fine	8.9	3.1	Good	Good	Little
	'80	"	178	"	"	Little	"	9.9	3.0	"	"	"
Hyōgo	1978	Round	209	Good	Much	Little	Fine	17.2	3.8	Excellent	Good	Little
	'79	"	165	"	"	"	"	11.8	3.7	Good	"	"
Okayama	1979	Round elliptic	194	Good	Much	Little	Fine	14.5	3.7	Good	Good	Little
	'80	"	173	"	"	Medium	"	8.8	3.8	"	"	"
Yamaguchi	1978	Round	102	—	Much	Non	—	17.8	3.9	Good	—	Little
Kagawa	1978	Round	185	Good	Much	Non	Fine	13.0	3.5	Good	Good	Non
	'79	"	178	"	"	Much	Medium	9.3	3.7	"	"	"
	'80	"	190	Poor	"	"	"	12.2	3.8	"	"	Medium

Table 3. Flowering and ripening time of ‘Hiratsuka Red’ (1978~’80).

District	Year	Flowering time	Ripening time	Days after full bloom	
Yamagata	1978	Apr. 28~May 1~ 6	Aug. 20~22~25	113	
	'79	Apr. 21~26 ~ 30	Aug. 7~13~17	108	
	'80	Apr. 30~May 4~12	Aug. 4~11~16	99	
	(Hiratsuka-69)	'80	Apr. 30~May 5~13	Aug. 7~11~14	98
	(Okitsu)	'80	May 3~ 5 ~ 12	Aug. 20~23~27	110
Fukushima	1978	Apr. 23~28~May 1	Aug. 8~11	105	
	'79	Apr. 8~15 ~ 19	Jul. 30~Aug. 1~ 6	108	
	'80	Apr. 21~26 ~ 30	Aug. 4~ 6~11	102	
	(Hiratsuka-69)	'80	Apr. 21~27 ~ 30	Aug. 4~ 6~11	101
	(Okitsu)	'80	Apr. 22~27~May 1	Aug. 15~18~20	113
Chiyoda	1978	Apr. 17~21 ~ 24	Jul. 26~31~Aug. 2	101	
	'79	Mar. 31~Apr. 3~7	Jul. 20~20~20	108	
	'80	Apr. 10~12 ~ 14	Jul. 21~25~28	104	
	(Hiratsuka-69)	'80	Apr. 12~15	Jul. 21~28~30	106
	(Okitsu)	'80	Apr. 15~18 ~ 24	Aug. 6~ 6~11	110
Yamanashi	1978	Apr. 9~15 ~ 22	Jul. 19~24~26	100	
	'79	Mar. 30~Apr. 5~11	Jul. 18~20~26	106	
	'80	Apr. 5~11 ~ 17	Jul. 20~24~29	104	
	(Hiratsuka-69)	'80	Apr. 5~11 ~ 21	Jul. 22~26~Aug. 4	106
	(Wase Nectarine)	'80	Apr. 7~16 ~ 25	Jul. 12~14~16	89
Nagano	1978	Apr. 27~May 1~ 9	Aug. 9~11~21	102	
	'79	Apr. 11~20 ~ 28	Aug. 6~ 8~11	110	
	'80	Apr. 25~May 2~ 7	Aug. 4~ 8~12	98	
	(Hiratsuka-69)	'80	Apr. 25~May 2~12	Aug. 6~11~11	101
	(Okitsu)	'80	Apr. 30~May 6~13	Aug. 19~26~30	112
Aichi	1978	Apr. 15~16 ~ 18	Jul. 24~Aug. 1~ 4	107	
	'79	Mar. 31~Apr. 6~ 7	Jul. 20~24~26	109	
	'80	Apr. 6~ 9 ~ 11	Jul. 25~29	109	
	(Hiratsuka-69)	'80	Apr. 6~ 9 ~ 11	Jul. 25~29	109
Kyōto	1978	Apr. 10~14 ~ 17	Jul. 20~22~31	99	
	'79	Mar. 31~Apr. 6~11	Jul. 23~25~28	110	
	'80	Apr. 8~14 ~ 17	Jul. 20~24~28	101	
	(Hiratsuka-69)	'80	Apr. 9~15 ~ 18	Jul. 25~28~Aug. 2	104
Okayama	1979	Apr. 3~ 7 ~ 13	Jul. 25~Aug. 7	109	
	'80	Apr. 11~15 ~ 21	Jul. 31~Aug. 12	107	
	(Hiratsuka-69)	'80	Apr. 8~12 ~ 19	Jul. 31~Aug. 7	110
	(Okitsu)	'80	Apr. 7~12 ~ 17	Aug. 21~26	131
Kagawa	1978	Apr. 3~ 6 ~ 10	Jul. 20~Aug. 7	115	
	'79	Mar. 29~Apr. 4~ 7	Jul. 28~31~Aug. 2	118	
	'80	Apr. 5~ 8 ~ 11	Jul. 19~Aug. 4	110	
	(Hiratsuka-69)	'80	Apr. 5~ 7 ~ 10	Jul. 19~Aug. 4~ 8	119

になり‘早生ネクタリン’のほかに‘水野ネクタリン’などの早生品種や晩生の‘秀峰’などが栽培されるようになったが、早生種は品質と日持ち性に、晩生種は栽培性に問題があり、改良の余地がある。また、‘Nectared’シリーズや‘Le Grand’シリーズなど導入品種が試作されてきたが、中生の‘Flavor-top’と晩生の‘Fantasia’が有望品種として認められたほかは、いずれもまだ栽培性と品質に問題がある。

‘ヒラツカ・レッド’は‘早生ネクタリン’と‘興津’の中間に熟する中生種で、この時期に熟する既存の優良品種が少ないので有望と思われる。‘早生ネクタリン’よりは7日遅く、‘興津’よりは10日早く熟し、山梨県では7月中下旬、長野県、福島県では8月上中旬に収穫できる。果実は、‘早生ネクタリン’や‘興津’よりも着色良好で、裂果が少なく、日持ち性も良好である。‘ヒラツカ・レッド’の2、3日後に熟する‘平塚69号’は裂果が少なく、日持ち性も良好であるが、果実の大きさと品質に関しては、‘ヒラツカ・レッド’のほうがやや良好なので、本品種を命名することにした (Fig. 3)。

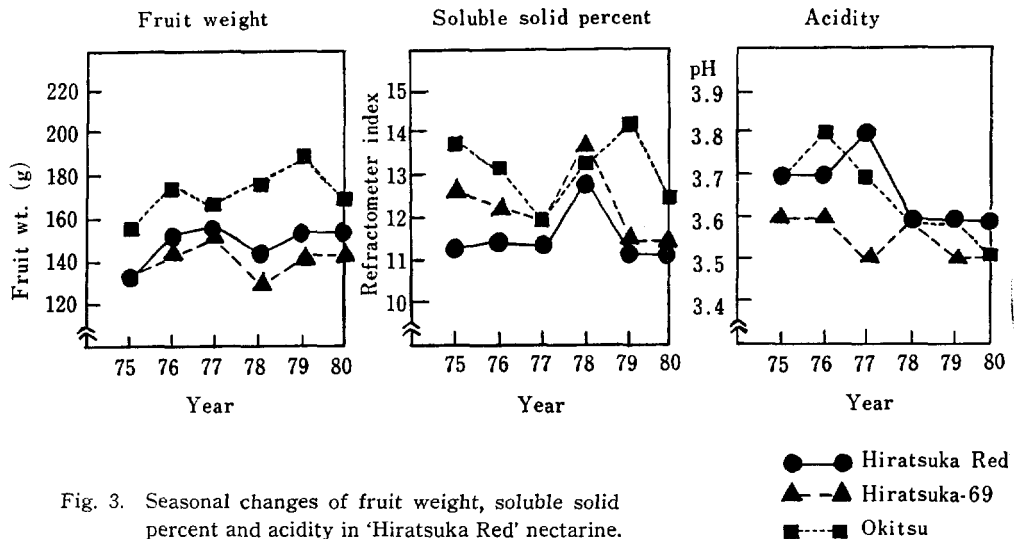


Fig. 3. Seasonal changes of fruit weight, soluble solid percent and acidity in 'Hiratsuka Red' nectarine.

本品種は各地で試作試験を行った結果、東北から九州まで栽培可能と思われる。しかし、成熟期に雨の多い所では、甘味が減少して品質が不良となるので、そのような地域には勧められない。また、日持ち性は普通であるが、普通モモよりは少し劣るので、市場や消費地に近い所で栽培するほうが有利である。

IV 摘 要

1. ‘ヒラツカ・レッド’は1961年‘興津’に‘NJN 17’を交配して得られたネクタリンの交雑実生で、個体番号‘19-16’、系統番号‘モモ平塚68’として試験され、1981年11月‘もも農林12号’として登録、公表された (Fig. 1)。

2. ‘ヒラツカ・レッド’は‘白鳳’とほぼ同時期に熟する中生種で、果実は約150g、果皮は紅色に

着色し、外観は美しい。黄肉で肉質良好、風味も濃厚である (Fig. 3~5, Table 2).

3. ‘ヒラツカ・レッド’は結実良好で、病虫害の被害も比較的少なく、栽培容易である。栽培の適地は広く、‘早生ネクタリン’に次いで熟する品種として有望である (Fig. 2, Table 1, 3).

引用文献

- 1) 浅見与七 (1927). 日本林檎及油桃之分類学的研究. 鍋島家農園学術報告.
- 2) 大日本農會三田育種場 (1884). 舶来果樹要覧.
- 3) Hough, L. F. and Bailey, C. H. (1962). Ten nectarines for eastern North America. *Fruit Vars. and Hort. Dig.* 17(1), 9-12.
- 4) Ikeda, T. (1907). The fruit culture in Japan. Tokyo.
- 5) 神奈川県立農事試験場 (1924). 農事試験成績 (桃ノ品種ニ関スル調査). 第52報.
- 6) 菊池秋雄 (1948) 果樹園芸学 (上巻). 養賢堂.
- 7) Nectarine Administrative Committee (1964). California nectarine: Varieties and seasons.
- 8) 農商務省農事試験場園芸部 (1912, 1917, 1923). 果樹及蔬菜品種一覽表.
- 9) 岡山県農業試験場業務日程 (1917~1923).
- 10) 谷川利善 (1934). 桃の有望新品種. 園試報. 17.
- 11) 吉田雅夫 (1971). これからのネクタリン栽培と品種. 農及園. 46(11), 1567~1571.

New Nectarine Cultivar ‘Hiratsuka Red’

Masao YOSHIDA, Kitsuo KANATO, Akio KURIHARA,

Teruo NISHIDA, Hidetoshi KYÔTANI and Masami YAMAGUCHI

Summary

1. The breeding program of nectarine at the Fruit Tree Research Station was started in 1961. The main objectives of this program are improvement of fruit qualities and of resistance to diseases. Consequently, we have succeeded in obtaining a promising new cultivar ‘Hiratsuka Red’.

2. ‘Hiratsuka Red’ originated in Hiratsuka, Kanagawa, in 1961 from a crossing of ‘Okitsu’ × ‘NJN 17’. It was selected as ‘19-16’ in 1966, tested as ‘Hiratsuka-68’ at sixteen experiment stations in peach growing districts since 1972, and released as ‘Nôrin-12’ in November 1982 (Fig. 1).

3. ‘Hiratsuka Red’ trees are moderately vigorous and productive (Fig. 2, Table 1). Leaf glands are reniform. The self fertile flowers are showy and pink (Fig. 6). Flowering time is earlier than ‘Okitsu’ (Table 3).

4. ‘Hiratsuka Red’ fruits ripen in midseason, in middle to late July in Yamanashi and in early to middle August in Nagano, similarly with ‘Hakuho’, a week after ‘Wase Nectarine’, ten days before ‘Okitsu’ (Table 3). The fruit is medium size, aver-

aging 150 g, round to round elliptic and uniform. It is very attractive, having a yellow ground color with bright red blush (Fig. 3, 4). Flesh color is yellow with a red near the pit. It is soft melting, fine texture and juicy. It has moderate sweet and sour taste. It has freestone and little split-pit (Fig. 4, Table 2).

5. 'Hiratsuka Red' is suitable for dessert use. It is easy to grow and relatively tolerant to diseases. Therefore, it is expected to be widely grown in nectarine growing districts.

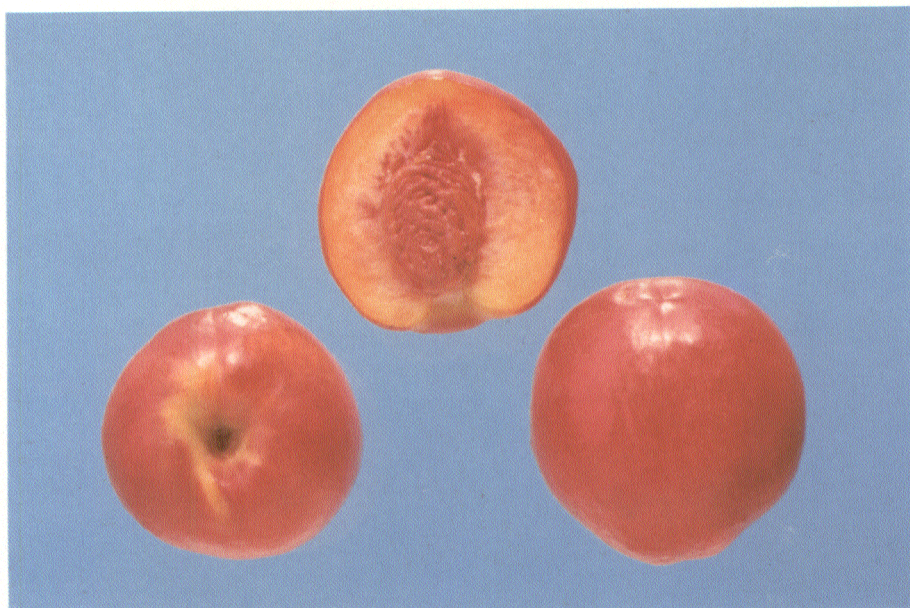


Fig. 4. Fruit of 'Hiratsuka Red'.



Fig. 5. Bearing of 'Hiratsuka Red'.



Fig. 6. Flower of
'Hiratsuka Red'.